

## ラーニング・サポーター ♪ 4月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

### <4月のつぶやき♪INDEX>

p.1 カメの歩み @T.K.(関連文化論専攻博士課程後期3年) 4月7日 tweet!

p.1 季節の変わり目 @M.H.(英文学専攻博士課程後期2年) 4月8日 tweet!

### つぶやき1♪ カメの歩み

先日、ラーニング・サポーターの皆様との座談会へ参加しました。異なる分野を研究している方々と語り、悩みや研究に対する姿勢、知りたいという熱意に共鳴できて、とても楽しかったです。

大学院へ進学すると、沢山の学びがあります。自分の研究分野についてもそうですが、一緒に授業を受ける先輩や同期、後輩の分野についても少しずつ知識が増えていきます。その中で、自分について知ることの大切さを実感するようになりました。

大学院は学部時代と比べると授業数が各段に減ります。なので、自分の裁量がかなり大きくなり、自分で予定を決め、実行することが大切になります。つまり、研究に取り組まなくてもいいと自分で決めてしまえば、そうできてしまうのです。困るのは自分なのですが、どうしてもその時の気分を優先してしまうことが多くありました。責任の所在が全て自分にあるので、それが重荷に感じられるのです。「明日の自分にやってもらおう」と思ったって、明日の自分がやらないことも分かっているのに……。

そして、自分を大切にすることとお声がけいただいても、自分のことは一番後回しでいいと思っていました。でも、研究を進めていくにつれて、自分がきちんとしていなければ何も成り立たないこと、そして短所に対応する方法が分かってきました。やりたくないと思ったらその理由を考えて、なるべく自分の負担にならないように動いたり、予定が入りすぎて疲れてしまっている時はお家でゆっくり過ごしてみたり。全部当たり前のことなのですが、自分に目が向いていない状態だと気付くことが難しいことでもあります。

研究は自分との対話によって進んでいくものでもありますが、私の場合は過去の研究と向き合う時間の方が長いように思います。だからこそ、自分の状況に無自覚になってしまうことが多くなってくるのかもしれない。

研究はカメのように遅い歩みで、新発見は本当に一握りです。時には殻に籠って、時には首を伸ばしながら、知りたいという気持ちを灯し火に進んで行けば、きっと道ができていくと信じるしかありません。でも、分厚く積み重なった知識の海山を縫って、自分だけしか見られない景色を見られたときの感動は何物にも代えることはできません。これからも研究はもちろん、自分のことにも目を向けながら進んで行きたいと思います。新年度となりお忙しい毎日をお過ごしと思いますが、皆様も自分を大切に、無理せず進んで行ってくださいね！

人間社会研究科 関連文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野	文化人類学、民俗学 日本におけるお祭りの社会的役割について
保有資格	博物館学芸員
サポート例	履修や研究の進め方、参考文献の集め方、 レポートや研究計画書の書き方、 フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします！ お気軽に声がけください。


### つぶやき2♪ 季節の変わり目

以前別の大学の大学院で授業を受けていた際に、先生が学生に対し、「好きな季節」について質問をしたことがあっ

た。皆がひととおり答えた後で「先生の好きな季節はいつですか」と学生が尋ねると、その先生は春から夏に移り変わるときの魅力を語り始め、最終的にはすべての季節を一周した。結論は、「季節の変わり目が好き」であった。私もこれに共感で、季節が変わるのを実感するのが好きだ。家の扉を開けた瞬間に昨日までとは違う匂いがしたり、吹いた風の温度が変化することに気づいたり、その季節に飽き始めた頃にやってくる

次の季節に対して新鮮さを感じると、姿勢を正さなくてはと思う。小学生の頃、ノートを一冊使い終わって、新しいノートを使い始める時、すごく丁寧に板書を写していた(毎回気づくと乱雑になっていたが)。何かしらひとつの区切りが存在することは私にとってすごく重要で、すぐだらけてしまう生活を引き締めるきっかけになる。日本に春夏秋冬が存在していて良かったなと思う。

新たな季節の訪れを感じると、それに伴って、何年も前のその季節での感覚が、蘇ってくることもある。例えば、夏から秋の変わり目になると、放課後自転車に乗ってピアノの先生の家に向かっていた時のことを思い出す。なぜか記憶に残っているその時のことが季節と結びついていて、蘇ってくるのである。最近、香水を時々変えると、同じようなことが体験できることに気づいた。その時感じたものが、あの時のあの感覚と同じだという発見は、なんだか面白い。論文を読んでいる時に別の論文で言われていたこととの関連性が見出せた時の感覚に近いのかもしれない。なんだか連想ゲーム(といえるのか?)のようなとりとめのない文章になってしまったが、一度姿勢を正して、2026年度も楽しく頑張ろうと思う。




## 文学研究科 英文学専攻

授業やレポートに関すること、大学院進学に関すること、  
そのほか大学生活を送るにあたって悩んでいることなど  
相談したいことがある時には、お気軽にお声掛けください  
図書館でお待ちしております！

**[自己紹介]**  
文学研究科 英文学専攻  
博士課程 後期 2年

**[専門分野]**  
・会話分析  
・相互行為言語学





ラーニング・サポーターのつぶやき (2026年4月)  
ホームページ [https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc\\_ls.html](https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html)  
編集: JWU ラーニング・コモンズさくら